

# 歴史 の風

## ふくおか 文化財たより

Vol.35 2021年10月号

～食欲の秋～

千年の時を越えて蘇る古の味

### → 古代のチーズ「蘇」



古代のチーズ? 「蘇」

昨年度から、NPOと連携して、鴻臚館の時代の料理の復元・アレンジに取り組んでいます。その1つとして「蘇」づくりを行いました。蘇は古代の日本で作られていた発酵さ

せないチーズのような食品と考えられています。牛乳が貴重品であった当時、蘇は滋養強壮用の薬として、また、酒の肴として宴席で振舞われた高級食材でした。

作り方は簡単。牛乳を鍋に入れて加熱し、固まるまで煮詰めるだけです。ただし焦げ付きやすいので常にヘラで混ぜながら長時間鍋の前になければなりません。現代ではテフロン加工の鍋もあるので当時に比べると楽なはずですが、意外に



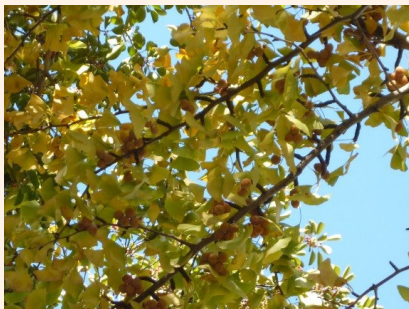
牛乳を混ぜながら煮詰めます

大変な作業です。完成した蘇は少し甘く素朴な味がします。色々な食材を混ぜたり、トッピングして楽しむこともできます。皆さんもお家時間に「蘇」を作って、古代を感じてみませんか。

～食欲の秋？～

いちぎょうじ

## → 博多区一行寺のシダレイチョウ



晩秋の一行寺シダレイチョウ  
写真下：ぎなんが実る様子

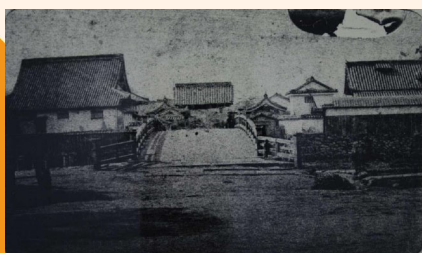
「ぎなん」というと櫛田神社のイチョウが有名かもしれませんが、<sup>いしどうがわ みかさかわ</sup>石堂川(御笠川)にかかる<sup>いしどうばし</sup>石堂橋から見える一行寺のイチョウをご存じですか？

まっすぐ立つ幹から<sup>おもむきぶか</sup>趣深い枝が垂れる姿は、川沿いに建つお寺の<sup>がらん</sup>伽藍と調和して美しい景観をつくっています。

一行寺のイチョウはぎなんを実らせる雌株で、50年ほど前に伐採された雄株の年輪から、<sup>てんぼう</sup>天保10（1839）年頃に

植えられたことがわかっています。当時、一行寺は唐津街道に面しており、<sup>さんもん</sup>山門前には博多の東側の守りを固める「<sup>いしどう</sup>石堂<sup>ぐちもん</sup>口門」が設けられていました（左下写真）。

葉が黄金色になる晩秋が楽しみですね。お近くにお越しの際は、江戸時代の景観も想像しながら、眺めてみてください！



「石堂口門と石堂橋」(明治初年頃)  
福岡市博物館蔵

橋の向こう側にみえるのが石堂口門  
橋の左側にみえるのが一行寺

一行寺のシダレイチョウは、端正な樹形と立地する景観や歴史的背景が評価され、市の文化財（天然記念物）に指定されています。

お城シリーズ → 福岡城御掃除之者大作戦  
～福岡城跡 小中天守台へいざ出陣！！～



御掃除之者 いざ出陣！



石垣の解説もあるよ！

広大な敷地を誇る福岡城跡の夏は、石垣に生い茂る「雑草」との戦いです。今夏の戦いに向け、「福岡城御掃除之者大作戦」と題して、SNSで清掃ボランティアを募集しました。「御掃除之者」とは、かつて福岡城に存在し、城の清掃を主な任務とした役職のことです。

7月17日(土)、総勢30名の令和の御掃除之者の皆さんと一緒に、石垣を傷付け



ないよう鎌やハサミを使用して 作戦終了後の小中天守台の様子  
丁寧に石垣の除草を行いました。文化財の解説や休憩を挟み、およそ1時間。見違えるように美しくなった石垣を目の前に、皆さん達成感に満ちた顔をされていました。

これから定期的に、「福岡城御掃除之者大作戦」を開催する予定です。大切な福岡市の宝「福岡城跡」を守る活動です。関心のある方は「福岡市の文化財」SNSをご確認いただき、是非ご参加ください！



「福岡市の文化財」  
Instagramはこちら

## お城シリーズ→ 名城復活にむけて

～熊本城復旧事業への支援～

福岡市は、平成28年熊本地震で被災した特別史跡熊本城跡の復旧事業に文化財を専門とする職員を派遣しています。



平櫓台の発掘調査  
(奥は天守閣)

地震により、国の重要文化財に指定された13の建造物すべてが被害を受け、石垣も約3割が崩れました。多くの市民からの寄付や関係機関の支援等をうけ

て、2037年度までに修理し、順次公開していく計画です。天守閣（1960年復元）は復旧作業を終えて、今年4月から見学できるようになりました。修理中の熊本城跡にもぜひご注目ください！



熊本市派遣  
本市職員A氏

私は、石垣の復旧作業に携わっています。熊本城の石垣には、上部が急勾配となる「武者返し」が多くみられます。福岡城と比較しながら見学するのも楽しいですよ！



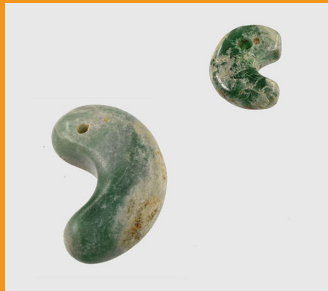
石垣の積みなおし作業

石垣の修理は、まず測量を行って修理する範囲を決め、次に発掘調査を行い記録をとった後に必要最小限の範囲を解体します。その後、石を一つずつ人の手で積みなおしていきます。それぞれの工程では、文化財を専門とする職員が立ち会い、記録を作成します。

(記事中の写真は熊本城調査研究センター提供)

～埋蔵文化財センターたより～

## → この石なあに？ ～第二の発掘～



ヒスイ製の玉類

古来からアクセサリーとして用いられてきた玉類には、<sup>まがたま</sup>勾玉や<sup>くだ</sup>管玉、<sup>たま</sup>小玉など多くの種類があり、その材料も石やガラス、貝など様々です。

縄文時代から古墳時代にかけては北陸地方で産出される緑色の<sup>こうぎよく</sup>硬玉(ヒスイ)が特に好まれ、福岡でも出土しています。緑色の玉の石材は、これまで北陸産のヒスイと考えられる傾向にありましたが、成分を分析する調査の結果、一見ただけではヒスイと見分けがつかない「クロム白雲母」や「アマゾナイト」という石が多く用いられていることがわかってきました。特に前者の石材は九州を産地とする可



クロム白雲母の玉類

能性もあり、当時の流通や交易などの研究にも期待が寄せられます。

当センターでは今年度、このように考古学と自然科学が融合し、新たな見地を生み出す「第二の発掘」をテーマに、企画展示と講座を開催しています。ご来館の前には、事前に埋蔵文化財センターホームページ



アマゾナイト製の玉類

をご確認ください。



こちらからどうぞ！

この記事で紹介した研究成果は、11月13日(土)に大坪志子氏(熊本大学)をお迎えして行う考古学講座でとりあげる予定です。

詳しくは本広報誌の裏面「イベント情報」をご確認ください！

## → 埋蔵文化財センターからのお知らせ

11月13日（土）考古学講座

「石材からわかる九州の縄文時代・弥生時代の玉文化」

講師：熊本大学 大坪志子氏

会場：福岡市埋蔵文化財センター（博多区井相田2-1-94）

※ **予約が必要です！**

詳細は下記ホームページをご確認ください。

福岡市埋蔵文化財センター ホームページ

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>



令和3年度博物館実習生による 展示 公開中！

「海辺のLIFE HISTORY in SAWARA

～遺跡からみた海辺の生活史～

期間： ～ 令和4年7月頃まで

場所： **文化センター高取**（早良区高取1-1-28-2F）

TEL 092-822-1132

営業時間 平日10:00～21:00

土曜日10:00～18:00

休業日 日曜・祝日

※第5週は全日休業の場合あり、お問合わせください。



※文化センター高取ホームページ <http://bct.jma-web.com/>

## 福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課

TEL:092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課

TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課

TEL:092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター

TEL:092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS